

# 現代首里方言訳『沖繩対話』（1）

## —「第一章 四季の部」（春・夏）—

仲原穰・比嘉恒明・仲里政子・新垣恒成・国吉朝政

はじめに

『沖繩対話』は沖縄県庁の学務課が編集した書籍であり、明治13（1880）年に標準語教育使用する目的で刊行された教科書である。日常生活や学校生活を舞台にした文が標準語で書かれており、その横に沖縄本島方言を付したものである。『沖繩対話』を収載した『琉球語便覧』の「凡例」に「『沖繩対話』に採用された琉球語はもとより琉球の標準語なる首里語であつて、護得久代議士の父故護得久按司朝常氏等が当時沖縄県庁の委託を受けて編纂されたのであるから、比較的上品な言葉である」（p.6）とあるので、標準語教育の目的で纏められた書籍でありながら、そこに記された言語資料は約130年前の首里方言の貴重な記述でもある。

130年経た現在の首里方言には、かつて存在したという3階級の区別はほとんどみられなくなり<sup>(1)</sup>、琉球国時代の出身地や出自によって、ニシカタ、サムレーと呼ばれる旧士族のことば<sup>(2)</sup>と、ヒャクショーと呼ばれる旧平民階級のことば<sup>(3)</sup>に大別される。

『沖繩対話』そのものには話者が明記されておらず、上に示した『琉球語便覧』の記述を頼りにするほかないが、本文に併記されていることばをみると、首里方言の旧上流階級や旧士族階級のことばを中心にしたものだと思われる。

今回掲載する「首里方言」は、現在話されている首里方言の大部分を占める旧士族階級、旧平民階級のことばを中心とした。両者の区別はいくつかの音韻と話す際のスピードが異なる程度である。よって今回はこの別をあえて区別せず、主に旧士族階級のことばを軸に記述し、旧平民階級の表現と異なる場合にのみ注記を加えることにした。

調査に使用したのは『琉球語便覧』に収載された『沖繩対話』である。当初は復刻版『沖繩対話』を用いていたが、『琉球語便覧』収載の『沖繩対話』には「伊

波普猷氏に乞うて別に之を羅馬字で写して貰った」（『琉球語便覧』凡例。旧字は新字に直して引用した。また、「歴史的仮名遣い」も「現代仮名遣い」に改めた）という「ローマ字表記」も併記されているメリットがあるため途中から『琉球語便覧』掲載のものに切り替えた。それにより本文中の片仮名表記の記述に疑問が生じた際にもローマ字表記ですぐに疑問が解消されることが多くあった。

また復刻版『沖縄対話』は、冒頭に「名詞之部」を設けており、その後に会話を掲載している。ただ、単語を掲載した国立国語研究所編『沖縄語辞典』が1963年に発刊されていることと、辞書にはあまり例文が豊富に載せられていないこと、将来、言語継承に用いるであろう例文があまり蓄積されていないことを理由に、対話の部分を先に報告することにした。

以下に挙げた現代首里方言訳『沖縄対話』の主な言語資料は1998年から2011年にかけて週に1回約2～3時間のペースで行われている研究会<sup>(4)</sup>で得られた音声資料が基になっている。『沖縄対話』を現代首里方言に翻訳するという作業は、首里方言の通時的な変化を考えるという目的で行われ、将来的には若い世代への言語資料、教材となることを目標にしている。インフォーマントは首里で生まれ育った比嘉恒明氏（1917年生）、仲里政子氏（1923年生）、新垣恒成氏（1932年生）、国吉朝政（1940年生）の4名である。なお、以下の資料には現代首里方言版だけでなく、『沖縄対話』に掲載された『沖縄対話』の歴史的仮名遣いやローマ字表記をもとに「復元」した本文も掲載してある。

## 凡 例

1. 調査で使用した『琉球語便覧』の本文（和文）、本文（片仮名）も表に取り入れ、約130年前の首里方言と現在の首里方言を対照できるようにした。
2. 『琉球語便覧』本文の和文表記は旧字体の漢字片仮名交じり文の「歴史的仮名遣い」で書かれているが、ここでは「現代仮名遣い」「新字体」を用いた表記に改めた。なお、漢字片仮名交じり文は漢字平仮名交じり文に改めた。また、漢字に付された読み仮名には特殊なものも多くみられるため、漢字の直後に（ ）で括って示した。
3. 首里方言の記述は広く一般に利用してもらえるように片仮名表記にした。片仮名の表記は、西岡・仲原（2006 [2000] :192-193）で使用されている片仮名を用いた。以下のような発音の場合は、特殊な仮名遣いを用いている。  
「ツワ」「ツヤ」「ツン」「ツウイ」「ツウエ」「ウウ」「イイ」「ン」  
/ʧwe/ /ʧja/ /ʧN/ /ʧwi/ /ʧwa/ /'u/ /'i/ /'N/
4. 『琉球語便覧』本文の片仮名表記には圏点「・」を付して特殊な発音を示したものがみられる。具体的には「テ<sup>・</sup>」と示して「テイ」、「デ<sup>・</sup>」と示して「デイ」、「ト<sup>・</sup>」と示して「トゥ」、「ド<sup>・</sup>」と示して「ドゥ」などとして読ませるといものである。これらも読みづらいため、『琉球語便覧』のローマ字表記を頼りに音韻的な片仮名表記に直した。
5. 踊り字（特に「ゝ」などの「一の字点」）は発音通りに表記するという原則により、直前の仮名（「ゞ」の場合はその濁音）で表記した。また、「子」も「ネ」と表記した。
6. 『琉球語便覧』のローマ字表記は紙幅の都合により割愛した。上記4で述べたように発音に忠実な片仮名表記にしたので、詳しくは『琉球語便覧』または『伊波普猷全集』を参照されたい。
7. 一人の発話を一つのセルに入れて示した。また、会話の冒頭部には、通し番号（No）を付した。

■第一章 四季の部 第一回 春

No	頁	本文 (和文)	『沖縄対話』本文 (沖縄語)
1	p1	今日は 誠に 長閑 (のどか) な天気でございます。	チューヤ マクトゥニ イイー テインチ デービル。
2	p1	左様でございます。好き 天気に になりました。	アン デービル。 イイー テインチ ナヤビタン。
3	p1	あれへ見えます 山は最早 (もう) 霞が 帯びました。	アマ ナカイ ミーユル ヤマー ナー カシミヌ カカテー ウヤビラニ。
4	p1	成程 皆 霞を 帯びました。	アン ヤヤビーン。 シナ カスイミヌ カカトー ヤビーン。
5	p1	御宅の 梅は 此 東風 (はるかぜ) に 綻 (ほころ) びましたのでござりましょう。	ウンジュナー インメー クヌ カジウウテー サチョーラ ハズィ デービル。
6	p1	はい。唯今 満開で ございます。	ウー ナマ セーチュー デービル。
7	p1 - 2	それでは 貴方 (あなた) の御育 (おそだ) てに になりました 鶯も よく鳴きますで ござりましょう。	アン ドウン ヤレー ウンジュヌ ウスダティニ ナトール ウグイシスイン ユー フキーラハズィ デービル。
8	p2	当月の中頃より 頻りに 鳴いて おります。	クンツイチヌ ナカグルカラ ドウツトゥ ユー フキーン。
9	p2	貴方の 紅梅は まだ 蕾 (つぼみ) を やぶりませんか。	ウンジュナーヌ コーベーヤ マーダ ツィブメー ヒラカニ。
10	p2	盆栽 (はちうえ) の梅は いつも 少し 遅く ございますが 漸く 昨日より 咲初 (さきそめ) ました。	ハチ ウィヌ ムメー イツイディン ウフェー ウスイク ナヤビーンスイガ ヨーヤク チヌー カラ サチハジミトー ヤビーン。
11	p2	今日の天気は 三月頃の 気候では ありますか。	チューヌ テインチエー サン グワツイグルヌ ハダムチエー アランカヤー。

■第一章 四季の部 第一回 春

No	現代首里方言	備考欄
1	チューヤ *マクトゥニ イイー **ティンチ ヤイビーン。	*「ジュンニ」ともいう(国吉氏のみ)。 **「天気」のことは「ッワーチチ」ともいう。〈以下同じ。〉
2	アンヤイビーン。イイー ティンチ *ヤイビーン。	*「ナイビタン」ともいう。
3	アマナカイ ミーユル ヤマー ナー チリヌ *カカテー ウウ イビラニ?	*「カカトーイビーン」ともいう。
4	アンヤイビーサ。*ムル **チリ ヌ カカトーイビーン。	*「アル ウッサ」ともいう。**「カ スメー」(霞は)ともいう。
5	ウンジュナー ッンメー、クヌ ク チカジウウテー *サチョーラン ディ ウムトーイビーン。	*「サチギサ(-)ソーイビーラヤー」 ともいう。
6	ウー。*ナマ マサカイ ヤイビー ン。	*「ナマ バンジ」ともいう。
7	*アンドウンヤイビーレー、ウン ジュガ スダティミソーチオル ウグイシン ユー **フキール ハジ ヤイビーン。	*「アンドウン」ともいう。 **「フキ ヤビーラヤー」ともいう。
8	クンチチヌ ナカグルカラ イッ ペー ユー フキトーイビーン。	
9	*ウンジュナー コーバエー ナーダ チブメー **フィラチ ハジミテー ***ウウイビラ ニ?	*「ウンジュヌ」でもよい。 **以下文 末までの部分を「フィラチャビラニ」に してもよい。 ***「ウウイビラランガ ヤー」でもよい。
10	ハチウイーヌ ッンメー トウー チ *イフェー **ウクリティ サチャビークトゥ ヨーヤク チヌーカラ サチハジミトーイ ビーン。	*国吉氏は「ウフェー」と発音する。* *「ニーク ナティ」ともいう。
11	チューヌ ティンチエー サングワ ツイグルヌ ハダムチエー *アイ ビランガヤー?	*「アイビラニ?」でもよい。

No	頁	本文 (和文)	『沖縄対話』本文 (沖縄語)
12	p2	当年は ちと 早く 暖和 (あたたか) になりました。	クンドー インテーノー フェーク スククナヤビタン。
13	p2	草も 木も 皆 嫩芽(わかめ)を 萌出 (ふきだし) しました。	クサン キーン ンナ ミドゥ リ ンジトーヤビーン。
14	p2	最早残雪 (ざんせつ) も ありますまい。	ナー スクトール ユチン ネーラン ハジ デービル。
15	p2-3	桃も 蕾も 大分 大きく なりたではござりませぬか。	ムムヌ ツイブミン ドウツ トゥ ウフィクナテー ウヤビ ランカヤー。
16	p3	最早 四五日の中には 咲きましょう。	ナー シグニチヌ ウチネー サチュラ ハヅィ デービル。
17	p3	貴方 御隙 (おすき) なれば 花見は 如何で ござります。	ウンジョー ウフィマダウン ヤラー ハナミーガ チャー ヤヤビーガ。
18	p3	どうか 御同伴 (ごどうはん) を 願いましょう。	ドーディン ウマジューン イ チャビラ。
19	p3	桜花は 何れが 宜しく ござりますか。	サクラ ヌ ハナー マーヌ マシ ヤヤビーガ。
20	p3	識名が 綺麗と 申すことで ござります。	シチナヌ マシンディ イヤ ビーン。
21	p3	弁当 (べんとう) は 御持参 (ごじさん) になりますか。	ビントーヤ ウムチミシエー ビーミ。
22	p3	弁当は 家内の者へ 申付ましたから 御心配 (ごしんぱい) には 及びませぬ。	ビントーヤ チネーヌ ムンニ イーツイキテークトゥ グシ ンパエー ミシヨーンナ。
23	p3	馬か 駕籠 (かご) に 乗りましょうか。	ウマディン カグディン ヌヤ ビラ。
24	p3	馬にいたしましょう。	ウマカラ イチャビラ。

No	現代首里方言	備考欄
12	クンドー イフェー フェーク *ヌクク ナイビタン。	*「ヌクパートーイビーン」でもよい。
13	クサン キーン *ムル ミドウ リヌ **ツンジトーイビーン。	*「イッソーナーディー」ともいう。* *「フチツンジトーイビーン」と「フチ」 を入れてもよい。
14	ナー スクトール ユチン * ネーランディ ウマーリヤビーン。	*「ネーラン ハジ ヤイビーン」でも よい。
15	ムムヌ チブミン ユカイネー マギク ナテー ウウイビランガ ヤー。	
16	ナー シグニチヌ ウチネー * サチュランディ ウマーリヤビ ーン。	*「サチュラ ハジ ヤイビーン」でも よい。
17	ウンジョー *ウフィマヌ ヤミ シェーラー **ハナ ウミカ キーガ ヲウエンシェービラニ。	*「マドゥヌ アミシェーラー」でもよい。 **「ハナミーガ」でもよい。
18	*ユタサイビーレー ウマジュン ソーテイ ツンジクイミシェー ビレー。	*「ドーディン」は少し古風な言い方で、 最近はあまり使わない。
19	サクラヌ ハナー *マーヤ マ シ **ヤイビーガヤー？	*國吉氏は「マータ」という。**「ヤ イビーガ」でもよい。
20	シチナー マシンディ ヲヤッ トーイビーン。	
21	ビントーヤ *ウムチミシェー ビーミ？	*「ムチミシェービーミ」ともいう。
22	ビントーヤ *チネーヌ ムヌンカ イ **イーチキテーイビークトウ ***グシンパエー シミシェー ビンナ。	*少し遜って表現する際、「家族」には 「ヤヌ ムン」ともいう。**「トウジ キテーイビークトウ」ともいう。*** 「ニンジケーヤ」という。
23	ツンマカ *カグンカイ スイビ ラナ？	*「カグニ」でもよい。または「カグヤラ ワン」でも可。しかし、そうなると日本語 訳は「駕籠などに」になる。
24	ツンマ ステイ *イチャビラ。	*「イチャビラナ」でもよい。

No	頁	本文 (和文)	『沖繩対話』本文 (沖縄語)
25	p 3	ここの桜は 誠に よく 開きております。	クマヌ サクラー ドウットウ ユー サチョーヤビーン。
26	p 3	なるほど 実に 綺麗で ござります。	アン デービル。フンヌ リッパ ヤヤビーン。
27	p 3	今日が満開で ござりましょう。	チューヤ セーチュー ヤヤ ビーラ ハズィ。
28	p 4	桜は 誠に 上品な 花では ありませぬか。	サクラー ドウットウ イイー ハナー アヤビランカヤー。
29	p 4	花も 種々(いろいろ) ありますが 桜は 又 一層(ひとしお) よろしく ござります。	ハナン イルイル アヤビー スィガ
30	p 4	日も 大分 永く になりました では ありませぬか。	フィーヤ ドウットウ ナガク ナテー ウウヤビラン カ ヤー。
31	p 4	日にまし 永くなります。	フィービー ナガク ナヤビーン。
32	p 4	新年は 此頃の 様に思いますが 最早春も 纔(わずか) になりました。	ミードウシエー クネーダヌ グトウドウ アシガ ナー ハルン ウフィドウナトール。
33	p 4	左様でござります。何事も 出来(でき) ない内 直(じき) に 夏が 参ります。	アン デービル ヌーグトウン サンウチ ニ スィグ ナ ツィヌ チャービーン。

## ■第一章 四季の部 第二回 夏

No	頁	本文 (和文)	『沖繩対話』本文 (沖縄語)
1	p 4	大分 夏の季(き)に になりましたでは ござりませぬか。	ユフドー ナツィヌ シツィニ ナタノー アヤビラン カ ヤー。
2	p 4 - 5	左様でござります。此頃は 梅雨中で未(ま)だ 別格の暑(あつさ)は ござりませぬが 晴(はれ) ましたらば 余程熱(あつく) なりましょう。	アン デービル クヌ グロー バイウジュー ヤティ マーダ アンマディ アツィコー ネーヤビランスィガ ハリードウンシエー ドウットウ ア ツィク ナヤビーラハズィ。



No	現代首里方言	備考欄
25	クマヌ サクラー *イッペー ユー **サチョーイビーンヤー。	*「アンシ ミグトゥ」でもよい。** 「サチョーイビーン」だと働きかけが弱く なる。
26	アン ヤイビーサ。 マクトウニ ミグトゥ *ヤイビーン。	*「ヤイビーンヤー」でもよい。
27	チュー*ドウ **マサカエー アイビラニ?	*「ヤ」でもよいが、この場面では係助 詞「ドウ」で強調した方が相応しい。*
28	サクラー マクトウニ イイー ハナー アイビランガヤー?	
29	ハナン イルイル アイビーシガ サクラー *マタ イチダン トゥ イイー ハナ ヤイビーン。	*「カワティ」でもよい。
30	フィーン ユカイネー ナガク ナテー ウイビランガヤー?	
31	フィービー ナガク ナイビーン。	
32	ミードウシェー *クネーダンシ ヌ グトゥドウ **アイビーシ ガ ナー ハルン ***イフィ ドウ ナトーイビール。	*「クネーダヌ」「チカグル」「クヌグル」 でも可。**ここは過去の表現「アイビー タシガ」でもよい。***「イキラク ナトーイビーン」でもよい。
33	アン ヤイビーサ。ヌーグトゥン *シーユーサン ウチニ シグ ナチヌ チャービーン。	*「トゥジミューサン マードウ タ デーマ」にすると時間的に少しゆとりが ある表現になる。

## ■第一章 四季の部 第二回 夏

No	現代首里方言	備考欄
1	ユカイネー ナチヌ シチ ナタ ノー *アイビランガヤー?	*「アイビラニ?」でもよい。
2	アン ヤイビーサ。 クヌグロー ナガアミヌ シチ ナイビティ マーダ *アンマディ アチコー ネービランシガ、ハリードウン シェー **マタ ***ナー フィン アチク ナイビラ ハジ。	*ここでは「アンスカ」、「アンスカ マ デー」、または「ウリ フドウ」でもよい。 **「マタ」は入れなくてもよい。*** 「イッペー」でも「ユフドウ」でもよい。

No	頁	本文 (和文)	『沖縄対話』本文 (沖縄語)
3	p5	昨日も 熱くございましたが 今日は 一層 暑さが 増しま した。	チヌーン アツイサー アヤ ビータスイガ チュー ヤ イ チダン アツイサ ヌ チュー ク ナドーヤビーン。
4	p5	実に 烈 (はげ) しくて 外に は 出られませぬ。	ジントー チューク ナティ フカンカイエー ンジラリヤビ ラン。
5	p5	先ず 上衣 (うわぎ) を お脱 (ぬぎ) なされませぬか。	マヅィ ッワーベー ウトウイ ミシエービリ。
6	p5	ありがとうございます。	ミフエー デービル。
7	p5	貴方も 袴を 御 (お) とり なされませ。	ウンジュン ハカマ ウトウイ ミシエービリ。
8	p5	それでは 御免 (ごめん) を 被 (こうむ) りましょう。	アンシェー グブリー シャビ ラ。
9	p5	水でも あげましょうか。	ミズイディン アギヤビラ。
10	p5	少し 頂戴 (ちょうだい) いた しとうござります。	シューシューヤ ヌミテーン ディ ウムトーヤビーン。
11	p5	砂糖を いれましょうか。	サトー イリーガ シャビー ラ。
12	p5	どうでも 宜しう ござりま す。	チャーシン ユタシャヤビー ン。
13	p5	貴方は 橙皮油を 上ります か。	ウンジョー トーヒーユー ウ シャガヤビーミ。
14	p6	誠に 好物 (こうぶつ) で ご ざります。	ドゥットウ スイチ デービ ル。
15	p6	氷水を あげましょうか。	クーリ ミズィ ウシャギーガ シャビーラ。
16	p6	それは 何よりの 御馳走 (ご ちそう) で ござります。	ウレー ヌーヤカン イイー グチスー ヤヤビーン。
17	p6	今 (も) 少し 橙皮油を あが りませぬか。	ナー ウフエー トーヒーユー ウシャガイエーシャビラニ。

No	現代首里方言	備考欄
3	チヌーン *アチサイビータシガ チューヤ イチダントゥ アチ サヌ チューク ナトーイビーン。	*「アチサー アイビタシガ」でもよい。
4	フントー *チューク ナティ フ カンカエー ッンジラリヤビラン。	*「チューサヌ」でもよい。
5	マジエー ッワーベー トウミ シェービラニ?	
6	ニフエー デービル。	
7	ウンジュン *ハカマ トウミ シェービリ。	*「ハカマー」のように「ヤ」(は)を入 れてもよい。
8	アンシェー グブリー サビラ。	
9	ミジンデー *ウサギヤビーミ?	*丁寧な言い方では「ウサガミシェー ビーミ?」だが、やや大げさと捉えられ る可能性あり。
10	イフェーヌメーヤーンディ ウ ムトーイビーン。	
11	サーター *イリヤビーミ?	*「ウサギヤビーミ?」だと丁寧な言い 方。
12	*チャーヤティン ユタサイビー ン。	*「チャーヤラワン」でもよい。「チャー ヤラワン」だと丁寧さが足りない。
13	ウンジョー トーヒーユー ウサ ガミシェービーミ?	
14	イッパー *シチ ヤイビーン。	*「シチョーイビーン」でもよい。
15	コーリ ミジ ウサギヤビーミ?	
16	ウレーヌーヤカン イイー *グ チスー ヤイビーン。	*「ティデー」でもよい。仲里氏は「ウ ティデー」という。
17	ナーイフェー トーヒーユー ウサガミシェービラニ?	

No	頁	本文 (和文)	『沖繩対話』本文 (沖縄語)
18	p6	ありがとう 沢山 (たくさん) 頂戴 いたしました。	ミフェー デービル ウフォー ク イタダチャビタン。
19	p6	御遠慮 (ごえんりよ) では ござりませぬか。	グインリュ ドウ ヤイエー シャビランニ。
20	p6	なかなか 左様ではござりませぬ。	アー アネー アヤビラン。
21	p6	夕立 (ゆうだち) でも あり そうな気色ではござりませぬか。	ユウダチヌ フィソーナ ティンチェー アヤビランカヤー。
22	p6	今に 来 (き) そうな 模様 (もよう) になりました。	ナマ フィソーニ アヤビーン。
23	p6	雷 (らい) の響 (ひびき) が いたしますが あれは 誠に 怖い ものであります。	カンナイヌ ウトゥヌ アヤ ビーシガ アレー ドウットウ ウトゥルシャ ムン ヤヤビーン。
24	p6	私は 去年 避雷針 (らいよけ) を 拵 (こしら) いました。	ワッターヤ クズ カンナイフ シギ シコーヤビタン。
25	p6 - 7	それは 結構 (けっこう) で ござりますが どこへ 御詔 (おあつらへ) なされました。	ウレー ユタシャヤビーシガ マーンカイ ッワーツイレー ミシェービタガ。
26	p7	工部省 (こうぶしょう) 御傭 (おやとい) の 職人 (しょくにん) に 頼 (たの) みました。	コーブシヨー ウヤティーヌ ショクニンニ タヌナビタン。
27	p7	あの 山の辺は 最早 雨が 降 (ふり) て おりましように 見えます。	アヌ ヤマー ナー アミヌ フトール ムヨー ヤヤビーサー。
28	p7	左様さ 此辺も 些 (ち) と 雨がほしく ござります。	アン デービル クマン ウフェー アミヌ フレー ユタ シャヤビーシガ。
29	p7	私共の 井 (いど) は 昨日より 潤 (か) れましたが 頻りに 雨を望ております。	ワッター カーヤ チヌーカラ フィッチョースイガ アミ マチカンティー ヤヤビーサー。
30	p7	それは 御難 (ごなん) 儀で ござりましよう 私の井を御 (お) くみなされ。	ウレー ドウットウ グフジ ユー ヤヤビールンナー ワッター カーカラ ウク ミミ シェービリ。

No	現代首里方言	備考欄
18	ニフエー デービル。ジューブン イタダチャビタン。	
19	*グインロー ヤミシェーピラニ?	*「グインルドゥ ヤミシェーピール イ?」でもよい。また、仲里氏は「グイン ドゥー」と発音する。
20	アー。アネー アイビラン。	
21	ナガシヌ *チーギサー ティン チェー アイピラニ?	*「チーギサル」でもよい。
22	ナマニン *チーギサー ヤイ ビーンヤー。	*すぐに降りそうなら「ウティーギサー ナトーイビーン」になるが会話に合わ ない。
23	カンナイヌ ナトーイビーシガ、ア レー シグク ウトウルシ ムン ヤイビーン。	
24	ワッターヤ クジュ *カンナイ フシジ シコイピタン。	*「カンナイヌジ」でもよい。
25	ウレー ユタサイビーシガ、マーン カイ ッワーチレー シミシェー ビタガ?	
26	コーブシヨウ ウヤトウイヌ シヨクニヌンカイ タヌマビタン。	
27	アヌ ヤマヌ フィノー ナー アミヌ フトール ムヨー ヤイ ビーン。	
28	アン ヤイビーサ。クマン イ フェー アミヌ フレー ユタサ イビーシガ。	
29	ワッター カーヤ チヌーカラ フィッチョーイビーシガ、アミ マ チカンティー *ヤイビーッサー。	*「ソーイビーン」でもよい。
30	ウレー ユフドゥ グフジュー ヤイビールンナー ワッター カーカラ ウチケーミシェービリ。	

No	頁	本文 (和文)	『沖縄対話』本文 (沖縄語)
31	p7	ありがとう ござります。	ミフェー デービル。
32	p7	御宅 (おたく) の 寒暖計 (かんだんけい) は 何度迄 (なんどまで) 昇 (のぼ) りましたか。	ウンジュナーヌ カンダンキーヤ ナンドゥマディ スブトーヤビーガ。
33	p7-8	はい 昨日は 九十二度で 今日 昨日より 三度 昇りて おります。	ウー チヌーヤ クジューニドゥ ヤヤビータシガ チューヤ チヌーヤカ サンドゥ スブトーヤビーン。
34	p8	それでは 九十五度でござりますか。	アンシエー クジューグドゥ ヤヤビーミ。
35	p8	左様でござります。	アン デービル。
36	p8	最早 暑も これより 強くは なりますまいか。	ナー クリヤカ アツイコー ナラノー アヤビラニ。
37	p8	左様さ 最早 土用 (どいよう) も 明 (あ) けますから 格別な事は ありますまい。	アン デービル。ナー ドゥーユーン ウチナシユクトゥ アンマディヌ アツイサー ネーヤビラン ハズイ。
38	p8	貴方の 御庭 (おには) は 泉水 (せんすい) が ありますから 夏の 御住居 (おすまい) には 誠に 結構で ござります。	ウンジュナーヌ ウニワー シンスイヌ アヤビークトゥ ナツィムチエー ドウットゥ イイー トウクル ヤヤビーカー。
39	p8	私の泉水は 源が 大分 遠う ござりますで 大抵の 干魃 (かんばつ) には 涸れませぬ。	ワッター シンスイヤ イズンヌ ドウットゥ トゥーサイビークトゥ ウフィヌ フィディリ ネーヤビラン。
40	p8	先刻 (せんこく) の夕立で 少し 涼く なりたでは ござりませぬか。	ナマ サチ アミ フタ クトゥ ウフェー スイダク ナテウウヤビランカヤー。
41	p8-9	私も 左様に 思 (おもい) ますが 今日が 立秋 (りっしゅう) でござりましょう。	ワンニン アン ウムトーヤビーシガ チューカラ リツシューヤ アヤビランタカヤー。

No	現代首里方言	備考欄
31	ニフエー デービル。	
32	ウンジュナー カンダンケイヤ ナンドウマディ アガトーイビー ガ？	
33	ウー。チヌーヤ クジューニドゥ ヤイビータシガ、チューヤ チヌー ヤカ * サンドゥ アガトーイ ビーン。	* 「サンドー」でもよい。
34	アンシエー クジューグドゥ ヤ イビーミ？	
35	アン ヤイビーン。	
36	ナー クリヤカ アチコー ナラ ノー アイビラニ？	
37	アン ヤイビーサ。ナー ドウユ ン ウチナスクトゥ * アンマ ディヌ アチサー ネーヤビラン ハジ。	* 「アンスカヌ」でもよい。
38	ウンジュナー ウニワー * イチ ヌ アイビークトゥ、ナチヌ クラ シットウツシエー イッペー イー トウクル ヤイビーツ サー。	* 「泉水」は「庭の池」と解釈した。
39	ワッター イチエー イジュンヌ * ユフドゥ トゥーサイビーク トゥ、テーゲーヌ フィディリネー フィヤビラン。	* 「ユカイネー」でもよい。
40	* ナマサチ、 アミ フタクトゥ、 イフェー シダク ナテー ** ウウイビラニ？	* 「ナマサチヌ アミサーニ」でもよい。 ** 「ウウイビランガヤー」でもよ い。
41	ワンニン アン ウムトーイビー シガ、チュー*ヤ **リッスーヤ アイビランタガヤー。	* 「カラ」だと「リッスーヌシチ」と 「シチ」を入れた方がよい。 ** 「リッスー ナトーイビーンヤー」 や「リッスー ヤイビーンヤー」でもよ い。

## まとめにかえて

ここに挙げた資料はこれまでに得られた調査結果の一部である。今回は紙幅の制限もあり、「第一章 四季の部」の前半部である「第一回 春」「第二回 夏」しか挙げていない。後半部の「第三回 秋」「第四階 冬」や、第二章から第七章までの会話編や第八章の単語編についても漸次資料を提示していく予定であり、それに向けて調査を重ねている。

『沖縄対話』には、現在の首里方言では使用しない「ミフェー〜」（御拝）や疑問を表す終助詞の「〜カヤー」を使用している点など、首里方言の貴重な言語資料である。しかしながら、今回は現在の首里方言との対比として示すことしかできなかった。これらの言語資料を基の一つ一つの表現についても通時的な考察を加える必要があるが、稿を改めて報告したい。

## 注

- (1) 琉球国時代は、王族のことばやウドントウンチという王族の家族を出自とする上流階級のことばも含め、3種類の区別があったとされる（国立国語研究所 1963）。しかし、話者の数の人数が多かった士族階級や平民階級のことばは現在まで継承されて残っているが、元来話者の数が少なかった王族階級や王族の家族を出自とする上流階級のことばは話者が少なく、継承が危ぶまれる。
- (2) 旧士族階級とは、琉球国に勤めて俸禄をもらっていた、あるいはかつて貰っていた人々（いわゆる「ヤードウイ」も含む）、及びその子孫にあたる人々のことであり、「サムレー」または「ニシカタ」（居住地域が主に首里城から北側になることから）と称される。また、かれらは出自を遡ると王族やその親族にまで遡る家柄も多くあるためであろうか、「ユカッチュ」（「ユカッ」は「ユカル」の変化した語で、首里王府編纂の『おもろさうし』（1531-1623）「よかる」に対応する語で「よい（位の）人」という意味で、現代日本語訳すると「良い人（良き人）」にあたる）と称されることもある。
- (3) 旧一般階級の人々は、琉球国時代に城下町である首里の生活を支えた人々でもある。一般の平民を「ヒャクショー」と呼ぶのは、もともと『論語』などで「百姓」を（ひやくせい）と発音し、「多くの民」や「人民」を指す語として用い



られていたこと（藤堂 他1994）と関係があるかもしれない。もともと商業や酒造業、畜産、鍛冶屋、農業などの仕事を担ってきた人々が多く、琉球国時代は首里のなかでも鳥堀、赤田、崎山の3集落で生活していた。そのため、現在でもこの旧一般階級の人々のことをサンカと称することもある。

(4) 「首里ことばの集い」という名称の研究会で創設時には、現在の研究会には参加していない加治工真市氏や中村春子氏、今年10月に故人となられた比嘉恒明氏も加わっていた。現在は仲里政子氏、新垣恒成氏、国吉朝政氏、知念うし、仲原というメンバー構成で週1回の研究会を継続している。これまで上記以外にも研究会に加わった人もいるのだが、数回しか参加していないメンバーや途中で脱会したメンバーは記していない。なお、研究会創設時から現在まで継続して参加しているのは新垣恒成氏のみである。

## 参考文献

- 沖縄県庁 編（1975 [1980]）『沖縄対話』〔復刻版〕 国書刊行会  
国立国語研究所 編（1963）『沖縄語辞典』 大蔵省出版局  
糖業研究会出版部 編（1916）『琉球語便覧』 糖業研究会出版部  
藤堂明保・松本 昭・竹田晃 編（1994）『新版 漢字源』 学習研究社  
西岡敏・仲原稔 著、伊狩典子・中島由美 協力（2006 [2000]）  
『沖縄語の入門（CD付改訂版）一たのしいウチナーグチ』 白水社

## 付記

今回、我々が毎週研究会を開催している沖縄県立芸術大学附属研究所の紀要に掲載していただくことになり、全員非常に喜んでる。この研究会が存続できるのも同研究所のご協力のお陰であり、首里方言を学ぶ我々が首里の地に立つこの研究所で活動する喜びを感じている。沖縄県立芸術大学附属研究所の方々に心から感謝申し上げたい。

また、1998年の当研究会の発足から欠かさず参加なさっていた比嘉恒明氏が今年10月に他界された。比嘉氏は戦前の幼い頃から戦中、戦後の沖縄、特に首里のことについていろいろと覚えておられ、本当に多くのことを教えていただいた。謹んで哀悼と感謝の意を表したい。